

読者の声

読者の皆さまから寄せられた
『aff』1月号のご意見や感想を紹介します。

❑ お米のことを改めて確認することができました。日本には好みや用途によってたくさんの品種があるので、いろいろ試したくなりますね。(40代・女性)

❑ お米の消費量が減少したとはいえ、まだまだ日本はお米の国なのだと思います。「ごはんの友」はお取り寄せしたいものが見つかりました。(40代・女性)

❑ 「学校給食を通じて和食文化を子どもたちへ」のコラムを、興味深く拝見しました。(20代・女性)

❑ 「ワインを選ぶように米を選ぶ時代へ」の見出しを見て驚きましたが、いずれそんな時代がくると納得がきました。これまでのように単に主食として同じ銘柄の米を食べ続ける時代でなくなるのでしょうか。(60代以上・女性)

❑ 特集「米」は、米に関するすべてのことが分かりやすくまとめられて大変良かったです。学生の教材としても活用できます。(60代以上・男性)

❑ 『aff』は情報の宝庫。今回は「米」の字の成り立ちに、見入ってしまいました(笑)。(60代以上・女性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



放射性セシウムに関する情報について

農林水産省のホームページ
(東日本大震災に関する情報)をご覧ください。
<http://www.maff.go.jp/>
携帯電話用ホームページ
<http://www.maff.go.jp/mobile/>

メールマガジンのご案内

大田メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする『農林水産省メールマガジン』を毎週金曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
<http://www.maff.go.jp/pr/e-mag/>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

NEWS

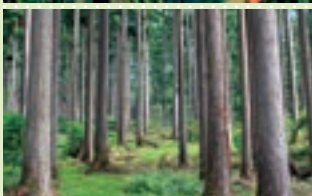
地域再生のために 新たな資金調達法「ふるさと投資」

近年、地域資源の活用やブランド化など、地域創生等の地域活性化に貢献が期待される取り組みを支える事例に対する小口投資が注目されています。そのための手段として、消費者を含めた幅広い方々からインターネットを通じて資金調達をするクラウドファンディングがあげられます。

農林水産分野においても、これを活用した取り組みが増えつつあります。消費者等からの資金をもとにした事業展開に加え、投資を通じた地域や取り組みへのファン獲得にもつながるなど、今後の普及が期待されています。

「ふるさと投資」の実例集

「ふるさと投資」で検索 ➡
「ふるさと投資」連絡会議・首相官邸を
クリック



上／埼玉県深谷市の「つばさグリーンファーム深谷ねぎファン」は、トラクター購入で活用。深谷ねぎのブランド力向上に寄与
下／岡山県の「西栗倉村共有の森ファン」では、「百年の森林事業」に参画する森林組合への機械リース事業を展開

和歌山県 (株)早和果樹園

有田みかんの 6次産業化による地域活性化



左／有田みかんを使ったこだわりの加工品
上／農作業や加工で活躍する「早和なでしこ」メンバーの作業風景

行っています。この取り組みは、持続可能な森林の活用や山林の再生につながるのと同時に、お菓子製造を通じた地域活性化にも貢献しています。

和歌山県有田市の早和果樹園は、温州みかんの安値が続く中、「量より品質で勝負しよう」と昭和54年に同世代のみかん農家7戸で設立した「早和共撰」からスタートしました。平成12年には、さらに有田みかんに付加価値をつけるため、6次産業化に取り組みます。ジュース、ジャム、ポン酢など有田みかんに特化した商品を消費者のニーズを把握しながら開発・販売。また、農作業や加工などシニア女性の活躍の場である子会社「早和なでしこ」を設立し、地元の雇用創出にも効果を発揮しています。



北海道 函館育ちふっくりんこ蔵部

美味しいお米 自分たちで 決まりをつくって守る!



左／地元高校生が「ふっくりんこ」を店頭販売
右／地元量販店と連携を行い、田植え・稲刈りツアーを企画

埼玉県 お菓子な郷 推進協議会

カエデの 多分野 多用途活用



上／カエデの樹液採取は、冬の1～3月に行われる
下／カエデから集めた樹液を煮詰め、メープルシロップができてあがる

埼玉県秩父市のお菓子な郷推進協議会では、秩父の山々に多く自生しているカエデに着目し、国内で初めて国産メープルシロップ事業を開始しました。樹液の採取からシロップ化(カエデ糖)までの一括生産のほか、カエデ酵母菌使用のパンの開発やカエデのラムネの販売など、6次産業化を推進。林商工連携によるお菓子作りも

「ディスカバー 農山漁村の宝」 (第2回選定) 選定地区をご紹介します

文／葵和みどり

「ディスカバー農山漁村の宝」は、地域が持つ魅力を発掘して農山漁村活性化につなげている優良事例を選定しています。

昨年、全国683地区の中から選定された優良事例は27地区あり、その中からグランプリや特別賞も選ばれました(2016年1月号で紹介しています)。

今回は、選定された優良事例の中から3つの地区を紹介します。北海道の「函館育ちふっくりんこ蔵部」、埼玉県の「お菓子な郷推進協議会」、和歌山県の「早和果樹園」です。

活発に活動中の
優良事例3地区

地域の住民と連携して
積極的に取り組む

北海道北斗市の函館育ちふっくりんこ蔵部では、優良品種米「ふっくりんこ」のブランド化と品質を守るため、ルールを守らないと生産や出荷ができない、収入は品質によって異なるという成果主義を取り入れました。その結果、地元外食チェーン店や小中学校の給食に採用。JAL国内線ファーストクラスの機内食としても継続して使用されています。生産量は平成15年から右肩上がり増加して、平成22年以降は7000t、9000tで推移しています。

また、「食べる前に知ること」をテーマに地元高校生による販売学習や、地元量販店と連携して田植え・稲刈りツアーを企画するなど、「ふっくりんこ」の普及・啓発活動にも励んでいます。